

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 活動名 | のと復興支援インターン<令和7年夏> |
|-----|--------------------|

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 貢献・連携類型 | 5. 学生の社会貢献活動への参加奨励 |
|---------|--------------------|

|     |         |    |    |     |    |        |
|-----|---------|----|----|-----|----|--------|
| 報告者 | 応用情報工学科 | 学科 | 職位 | 准教授 | 氏名 | 五味 悠一郎 |
|-----|---------|----|----|-----|----|--------|

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

令和7年春に実施した【のと復興支援インターン<令和7年春>】企画が、学生にも地元の方にも好評だったことから、NPO法人紡ぎ組に協力いただき、災害学習と能登復興支援を兼ねたインターンを応用情報工学科主催で実施いたしました。

他学部他学科も参加できる企画ではありますが学内での周知が難しい中、多くの学生が参加してくれました。

活動内容は、輪島市の子供たち向けの遊び場作りとして、旧深見小学校（深見センター）で花壇と小屋づくりに取り組み、途中で奥能登視察ツアーも実施し、能登で活動している若手が集う「能登若集の会」にも参加させていただきました。同時期に深見センターで活動していた他大学の学生や、所々で被災者や支援者との交流もでき、大変有意義な活動となりました。活動にご協力いただいたNPO法人紡ぎ組様、急なお願いにもかかわらず温かく迎え入れてくれた能登若衆の会の皆様に感謝申し上げます。

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

本活動は、学生にとって実践的な学びとなっただけでなく、被災者との関係も生まれ、学生の研究や継続支援にも繋がりました。

被災地では学生のお手伝いに対するニーズが多数あることもわかりましたので、石川県のサテライトキャンパス構想や石川県と日本大学の包括連携協定を背景として、能登の復興に目処がつく（支援がなくても日常生活や経済活動が持続可能な状態になる）までは、学生が活躍できる場を広げつつ、様々な方策で支援を継続していきます。

【日本大学関連企画 | 能登ステイ】  
<https://notostay.com/nu/>

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 対象・相手先 | 石川県<br>NPO法人紡ぎ組 |
|--------|-----------------|

|                                  |
|----------------------------------|
| 協定書・依頼の有無（具体的に記入）<br>石川県との包括連携協定 |
|----------------------------------|

|      |                |
|------|----------------|
| 実施日時 | 令和7年8月25日～9月3日 |
|------|----------------|

|    |     |
|----|-----|
| 場所 | 石川県 |
|----|-----|



本学からの参加者

引率教員：応用情報工学科 五味悠一郎  
 参加学生：精密機械工学科4名、応用情報工学科13名

